

一人一人が誇りを持って働ける行政に

内閣官房内閣人事局企画調整官

渡邊 瑠美子 WATANABE Rumiko

平成 16年 4月 総務省採用
 同 人事・恩給局管理運用係
 平成 17年 4月 同 大臣官房総務課
 平成 18年 7月 同 自治行政局行政課分権法制推進室
 12月 同 行政評価局評価監視官(独立第一担当)付
 平成 19年 7月 同 行政評価局評価監視調査官(独立第一担当)
 平成 20年 4月 同 行政管理局主査
 平成 22年 7月 同 行政評価局政策評価官室評価監視調査官
 平成 23年 8月 米国留学(ペンシルベニア州立大学)
 平成 25年 6月 総務省人事・恩給局参事官補佐(給与第二担当)
 平成 26年 5月 内閣官房内閣人事局参事官補佐(女性活躍促進・ダイバーシティ担当)
 平成 28年 6月 総務省情報流通行政局情報流通振興課課長補佐
 平成 31年 4月 同 大臣官房政策評価広報課課長補佐
 令和 3年 7月 現職



総合的な人事戦略

総務省に入省して19年目に突入しようとしています。初任時から人事行政部門において、障害者雇用促進のための環境整備など多様な人材の確保に関する検討を行い、内閣人事局の発足時には女性職員の活躍推進を担当させていただきました。そして現在、国家公務員の定年の引上げを見据えて、意欲のある高齢期職員に御活躍いただくための方策について、日々思索しています。

全ての職員がやりがいを持って生き生きと働くことができるよう、環境整備を行うことが内閣人事局の使命です。任用、人事評価、研修、働き方改革等、様々な角度から人事管理の基盤づくりに取り組んでいます。すぐに結果が出るものではありませんが、自分も含めて将来に渡り気持ちよく仕事ができるよう、中長期的な視点から戦略を練るべく心掛けています。実際、私が入省した際は、まだまだ深夜残業は当たり前、24時間戦える人材が重宝されました。しかしそれでは、多様な人材を受け入れ、持続可能な組織は作れません。現在は、フレックスタイム制の導入やテレワークの定着など、働き方改革の進展により職場環境は大きく変化し、育児や介護で時間制約のある職員であっても、活躍できるようになりました。

総務省の魅力

入省以来、上述の人事行政を始め、政策評価や独立行政法人の評価、電子政府の推進など、行政の基盤づくりに携わってきました。いずれも地味かもしれませんが、国家公務員として働く人々を支え、効率的な行政運営の下に効果の高い政策が生み出されるよう後押しをする、そのような重要な役割を経験できるのが総務省だと自負しています。

また、こうした責務を果たすためには、実際に各種制度を運用している各府省等の皆さんの声が欠かせません。霞が関のみならず地方部局も含めてどのような課題があるのか、どんな仕掛けをすればうまくいくのか等について、定期的な意見交換を通じて現場の実情を知り、制度設計の在り方などを模索しています。

新たなステージに向けて

新型コロナウイルス感染症の拡大による生活様式の変化、急速に進展するデジタル化、人々の価値観の変容など、我々を取り巻く情勢は、日々目まぐるしく変化しています。こうした変化を楽しみながら、共に立ち向かう仲間にお会いできるのを、楽しみにしています。



家族で過ごす癒しのひととき

民主主義の危機?

新型コロナは私たちの生活を一変させました。その中で、社会の基盤である「民主主義」が危機に瀕しているとの議論も見られます。ある政治学者は、近年の社会の分断の広がりに警鐘を鳴らし、ある政治経済学者は、民主主義国家はコロナ対応で十分なパフォーマンスを発揮できなかった可能性を指摘しています。

それでも民主主義は、誰もが社会の中で生き生きと暮らしていくために、追いつけるべき価値であり、そして総務省が担う行政管理の仕事は、民主主義の中で行政がより良く機能するために不可欠な機能を担っています。

民主主義に資する行政であるために

民主主義と聞くと、選挙を思い浮かべる人が多いと思いますが、それだけではありません。政府が、日々政策を実施する中で、市民・国民に信頼されるような存在であるために、あらゆる仕組みを設けています。例えば、政策評価、情報公開、統計制度などなど。これらは総務省が担う行政管理の機

能です。

音楽プロデューサーのJ.Y.パーク氏は、アーティストが永く愛されるためには「真実」「誠実」「謙虚」が重要だと説いていました。行政運営においても同じだと思います。世の中の課題をデータに照らして検証すること。政策決定プロセスを丁寧に説明すること。これまでの政策の効果を虚心坦懐に検証し改善すること。それらの積み重ねにより、行政が信頼され、民主主義に資する存在になるのだと考えます。総務省はそのための基盤づくりを担っているのです。

広がる行政管理のフィールド

行政管理という機能を広く捉えれば、そのフィールドは総務省の外にも広がっています。内閣人事局やデジタル庁もそうですし、現在私が勤務している財務省主計局もその1つ。「財政」「予算」の観点で、各省庁の政策や制度をより良いものにするため、日々議論を重ねています。業務の中で痛感するのは、相手省庁やその先にいる様々なステークホルダーの意見に寄り添いつつも、政府全体を俯瞰しながら、規律を保っていくということの重要性です。これは、私のこれまでの総務省や内閣人事局での経

験でも通底する実感です。

私だけでなく多くの同僚が、あらゆるフィールドで行政管理に携わっています。「行政をより良いものにし、民主主義を支える」という終わりなきミッションに向かって、一緒に挑戦しませんか?



LA留学の思い出



消防庁での研修にて(現場の近さも総務省の魅力)

民主主義を支える行政管理

財務省主計局主計官補佐(厚生労働係)

勝本 大二郎 KATSUMOTO Daijro

平成 22年 4月 総務省採用
 同 行政管理局行政情報システム企画課
 平成 23年 7月 同 人事・恩給局退職手当第一係
 平成 24年 7月 同 人事・恩給局退職手当第一係長
 平成 25年 6月 同 行政管理局主査(業務・システム改革総括)
 平成 27年 8月 内閣官房内閣人事局総括係長
 平成 29年 7月 米国留学(南カリフォルニア大学)
 令和 元年 7月 消防庁予防課危険物保安室課長補佐 併任 特殊災害室
 令和 3年 7月 現職

